



代っ子通信

令和6年5月20日

<第8号>

校長 平塚智康

フィールドワークで学ぶ ～6年生 ツバメ調査～

5月13日（月）、6年生のツバメ調査が行われました。石川県では、身近な野鳥「ツバメ」を観察することにより、環境への理解を深めようと、昭和47年からツバメの生息調査を行ってきました。毎年、愛鳥週間に県内の公立小学校6年生によって調査が行われます。石川県で生まれ育った保護者の皆さんにとってはなつかしいのではないのでしょうか。（私もやりました。）

今年の山代小6年生の調査では、68個のツバメの巣を見つけられました。



6年 別所チーム

- はじめはツバメはいないと思ったけど、実際に見るとかわいいツバメがたくさんいてびっくりしました。
- ツバメの巣がある家は、前もきたことがある家が多いことが分かりました。
- 地域の人たちは、ツバメの巣のことはべつにわるいと思っていなかったからよかったです。
- ツバメの巣がわたしの家のとなりにあったのがびっくりしました。けっこうツバメがいることも分かった。
- 昔からずっと同じ場所に巣を作っているツバメだけでなく、何年に1回巣を作るツバメもいることが分かった。
- 毎年巣を作り続けているツバメがいてすごいなあと思いました。もっとツバメについて知りたいと思いました。

6年 14区の5チーム

地域の人の話では、昔はたくさんツバメがいたと言っていました。でも調査をして、1個しか見つからなかったの、少なくなっているなあと思いました。なので、もしわたしたちの家にツバメが来たらあたたかく見守りたいと思いました。

6年 22区チーム

巣の中にヒナが5ひきいて、親のツバメがヒナたちにえさをあげていました。ツバメの巣のあった家の人から、小さいヒナが巣からおとされると聞いて、いろんなツバメの豆知識を教えてもらって勉強になりました。



「ツバメは毎年同じ家に来て巣を作ることが多い。」

「毎年やってくるツバメもいる。」

「昔はもっとツバメが多かったが、今は少なくなった。」

「親のツバメは、小さいヒナを巣から落とすことがある。」

「山代の方は、ツバメを温かく迎えている人が多い。」・・・

6年生は、山代の町に出かけ、ツバメの現地調査（フィールドワーク）を行うことで、いろんなことを学んできました。実際に自分の目で見たり、地域の人から話を聞いたりする中で得た知識は、心や記憶に深く刻み込まれることが多く、かけがえのないものです。生活科、社会科、理科、総合的な学習・・・いろんな学習活動の中にフィールドワークを効果的に取り入れて、子どもたちの好奇心や自然・社会への興味・関心を高めていきたいと思います。

6年生のみんなには、ツバメ調査を通じて疑問に思ったことや不思議に思ったこと（? : はてな）を、ぜひ自学などで探究してほしいなと思います。

（例）「なぜツバメは昔に比べて少なくなっているのだろうか？」

「ツバメはどこからやってくるのだろうか？どこに帰っていくのだろうか？」

「親のツバメはどうして小さなヒナを巣から落とすのだろうか？」

「ツバメが巣を作るところにはどんな特徴があるのだろうか？」

避難訓練

5月14日（火）、火災想定での避難訓練を実施しました。今年は数年ぶりに、消防署（山代分署）の立ち合い・指導の下での訓練を行いました。

先週、各学級で「お・は・し・も（おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない）」など、災害発生時の避難行動についての事前学習を行いました。この日の訓練では、ふざけたり・しゃべったりする子は一人もおらず、みんな真剣に避難行動を取ることができました。消防署の消防士さんからもおほめの言葉をいただきました。

今から、87年前の5月12日、山代温泉で大火があり、約500棟の家屋が全半焼したということです。そして、今年元旦には、能登で大きな地震もありました。「自分の命は自分で守る」・・・しっかりと避難行動を取ることのできる力を子どもたちに身につけさせていきたいと思います。

